

暮らし、平和守る区政に

◆本田議員は戦争体験の引き継ぎに焦点を当てた平和事業充実を提案

① 今年3/7の予算特別委員会で、本田委員は、プーチン政権によるウクライナ侵略の中で行っている核威嚇や、国内で盛んに行われている核共有を主張する議論に、平和首長会議に参加する花川区長は、どう対応するのかを問いました。

②また、本田議員は、北区の平和事業について、原爆投下や東京大空襲などでの非人道的惨状を区民とともに学び、語り継ぎ、次の世代にも、世界の人々にも伝えていく方向で充実することについて3点の質疑を行いました。

●ヒバクシャ「国際署名」への花川区長署名などには言及しない北区

平和事業担当課長は、平和都市を宣言した北区として、核威嚇、非人道的行為はあってはならず遺憾だとしながら、核兵器禁止条約批准については平和首長会議の一員としての活動を続けること、国会や他自治体の動向などを注視したいといういつもの答弁を繰り返し、核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」への区長の署名については明言を避けました。

●戦争(被爆)体験を聞く会や、原爆慰霊祭への区民派遣は研究

①「北区の敗戦80年誌の発行とその準備」②「戦争体験、戦争関連の北区の資料や戦績の掘り起こし事業」③「掘り起こした新しい体験や資料を生かした、平和祈念週間展示、被爆体験を聞く会などの開催、北区戦跡めぐりツアーの充実、広島・長崎への区民代表の派遣」などを提案しましたが、他自治体の平和事業と併せて研究していく、平和首長会議の「子どもたちの平和なまち絵画コンテスト応募」などには引き



ご相談はお気軽に
090-9240-8066

続き参加していくと、

★私、本田正則は3月の区議会予算特別委員会で北区の平和事業について質疑いたしました。その内容をご紹介します。

★核兵器廃絶運動をけん引した長崎の被爆者、故谷口稜^{すみてる}さんにスポットを当てたドキュメンタリー映画「長崎の郵便配達」(川瀬美香監督)が東田端のシネマチュプキで公開となり、北区原水協は8/7鑑賞会を計画しています。裏面をご紹介します。

ここでも首長会議の一員にとどまる答弁でした。

◆長崎での平和首長会議参加の総務部長の感想・認識を問う

●部長は、①海外からも48都市代表や多くの方々の慰霊祭への参列もあり、世界中の人々が平和を願う思いは共通であると感じたこと、②印象的だったのは、「若者の役割をテーマにした会議」で、大学生、高校生の皆さんが、海外加盟都市の代表者とのグループワークで積極的な意見交換と熱のこもったプレゼンテーションをされており、体験のない世代が圧倒的となったこの現代において、平和や核兵器のない世界を目指す活動における若者への期待を感じさせるものだったという二点の感想を述べました。その上で、改めて、我が国の非核三原則からも、世界においても核兵器使用はあってはならないとの考えを表明しました。

◆本田議員は、改めて、平和事業の充実を提案

若い世代が核兵器禁止運動に取り組む背景にも、NATO傘下のオーストリアが核兵器禁止条約の推進に積極的な背景にも、被爆者の方々の活動を通じて「キノコ雲の下でおこっていた具体的な様子」が徐々に伝わり始めていることを指摘。下町大空襲と、城北大空襲の両方を体験した西ヶ原の方の実話や、学童疎開先である中之条町が北区で発見された疎開児童の16mmフィルムの上映会を行ったことなども紹介しながら、平和祈念事業の友好都市との交流事業や、写真・絵画・手記・動画資料や映像作品を見る会、戦跡巡り、体験を聞く会などの充実を改めて提案しました。

北区議
会議員 日本共産党 本田正則 区政レポート

NO. 302号 2022.07.21

日本共産党北区議員団
〒114-8508 北区王子本町 1-15-22



北区原水協企画 映画「長崎の郵便配達」 上映のご案内



会場：CINEMA Chupki TABATA
(シネマ・チュプキ・タバタ)

8月7日(日)
10時30分～12時07分
(20席全席貸し切り)

核兵器廃絶運動をけん引した長崎の被爆者、故谷口稜暉(すみてる)さんにスポットを当てたドキュメンタリー映画「長崎の郵便配達」川瀬美香監督の作品です。

チケット料金：一般 1,500円/シニア(60才以上) 1,100円/学生・ユース(22歳以下) 1,000円/中学生以下 500円/プアエイド割引1,000円

ご参加ご希望の方はメールにてご連絡ください
問い合わせ・申込先

北区原水協・森松宛 メール：soshiki-morimatsu@tokyohokuto.or.jp
電話：080-2028-9930

CINEMA Chupki TABATA
(シネマ・チュプキ・タバタ)

JR山手線・京浜東北線「田端駅」
北口から右方向、徒歩7分

〒114-0013 北区東田端2-8-4 マウ
ントサイドTABATA
TEL 03-6240-8480



北区原水協は映画「長崎の郵便配達」の8/7鑑賞会を企画

この作品は、ピーター・タウンゼンド氏が書いた、被爆者運動の牽引者の一人谷口稜暉(すみてる)さんを描いたノンフィクション小説を映画化したものです。

谷口さんは、16歳で郵便配達の途中で被爆し、生涯を核廃絶を世界に訴え続けた人。タウンゼンド氏は、マーガレット王女との悲恋で有名な人。後ジャーナリストとして世界を巡り、長崎で巡り会った谷口さん取材して、84年に出版したのがノンフィクション小説「THE POSTMAN OF NAGASAKI」。

この映画は、タウンゼント氏の娘で女優のイザベル・タウンゼンドさんが、父親の著書を頼りに長崎でその足跡をたどり、父と谷口さんの想いをひもといていく物語。

撮影にも協力した西日本新聞が、「監督の川瀬さんは、ピーターさんの本の復刊運動に関わっていた知人を通して、14年ごろに谷口さんと知り合った。『核兵器をいまだに持ち続けている国があることが許せない』と、静かに話す姿が忘れられないという。15年春、核拡散防止条約再検討会議に合わせて訪米した谷口さんに同行し、核兵器廃絶を訴える姿を映像に収めた。その後も長崎などで繰り返し面会したが、『原爆』という重いテーマに気後れし、映画化に踏み切れないでいた。」

「迷いは、イザベルさんとの出会いが断ち切ってくれた。英空軍のパイロットとしてナチス・ドイツとの航空戦『バトル・オブ・ブリテン』に参戦したピーターさんは戦後、なぜ被爆者を描いたのか。イザベルさんも、その問いに迫ろうとしていたのだった。川瀬さんは決断した。「子を持つ一人の母親としてイザベルが父たちの戦争とどう向き合うのか。その姿を通してなら、原爆を知らない私にも描けるものがある」と紹介しています。

シネマチュプキ田端は「『核兵器』という言葉がリアルに響く今この時こそ、平和の願いを誰かに“配達”してほしい。父から娘へのメッセージが、今、あなたの元へと。と紹介しています。

なお、同映画館は『日本一小さい映画館、日本一小さい映画館』を標榜している常設館で、8/1～16日の12:40～14:39には、「あの日のオルガン」なども上映予定です。

また、現在、鑑賞後の懇談会場を検討中です。ただ、近隣の公的な会場はすでに空きがなく、コロナの拡大が心配されているので、対策してある飲食店などを当たっていますが、なかなか見つからないということです。